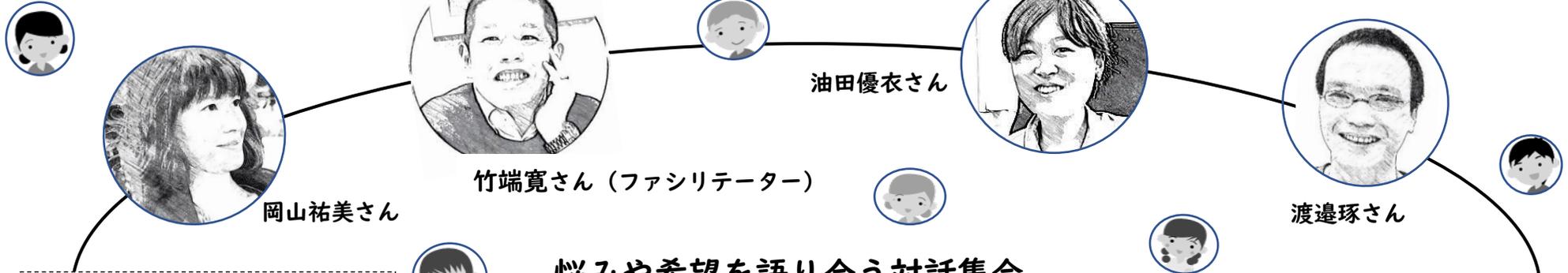


## 第34回 国際障害者年連続シンポジウム

# 自立生活運動・オープンダイアログ・当事者研究



相模原事件、深刻な介助者不足、進まない脱施設、地域間格差、障害者と介助者の人間関係の行き詰まり、地域で暮らし続けることの慢性的な悩み、障害の重度化や多様化、高齢化、介助者たちの痛み…

自立生活運動は今、新しい課題に直面しています。

精神障害や依存症などの分野で注目を集めているオープンダイアログや当事者研究のアプローチを通して、現状の課題についてみんなで学び、語り合しましょう。

### 悩みや希望を語り合う対話集会

熊谷晋一郎さん (基調講演)

立岩真也さん

小泉浩子さん

【日時】2020年2月8日(土) 11:00 (10:30 開場) ~17:15

【場所】立命館大学 衣笠キャンパス 創思館1F カンファレンスルーム

【参加費】500円 【主催】「国際障害者年」連続シンポジウム運営・実行委員会

【共催】立命館大学生存学研究所 【事務局】日本自立生活センター (JCIL)

(←企画内容の詳細は「JCIL」ホームページまで)

【後援】京都府、(公財)京都新聞社会福祉事業団、他

## 【出演者の紹介】

**熊谷晋一郎さん**（基調講演） 脳性まひの当事者として自立生活運動に大きな影響を受けつつ、現在、「当事者研究」をテーマに、隔離、スティグマ、発達障害、依存症、刑務所などの課題に新機軸を開いている。東京大学先端科学技術研究センター准教授、小児科医。著書多数。最近では、雑誌『臨床心理学』増刊号にて、「当事者研究」3部作の編集にあたった。

**竹端寛さん**（ファシリテーター） 隔離や抑圧からの解放をめざす「対話（ダイアログ）」の研究者にして実践家。竹端さんのファシリテートによる対話集会はぜひ多くの人に体感してほしい。兵庫県立大学環境人間学部准教授。『「当たり前」をひっくり返す』（現代書館、2018年）など。

**小泉浩子さん** 幼少時の黄疸による脳性まひ当事者。現在、日本自立生活センター自立支援事業所管理者。重度知的障害者や難病者など障害種別をこえた多くの自立生活の現場に関わり、複雑な人間模様を知る。共著に『障害者運動のバトンをつなぐ』（生活書院、2016年）。

**立岩真也さん** 障害者自立生活運動を世に知らしめた第一人者。最近は筋疾患系障害者への聞き書きを精力的に進めている。立命館大学大学院先端総合学術研究科教授。著書多数。近刊に『弱くある自由へ（増補新版）』、『病者障害者の戦後』（いずれも青土社）など。

**岡山祐美さん** 10代半ばで進行性筋疾患（遠位型ミオパチー）発症。徐々に歩けなくなり、20代半ばで仕事もやめ、実家で生活。舞鶴市を出て京都市で自立生活。現在、24時間介助利用、日本自立生活センタースタッフ。「筋ジス病棟の未来を考えるプロジェクト」の中心メンバーの一人。

**油田優衣さん** 全身の筋力が次第に衰えていく SMAⅡ型の当事者。福岡県出身で京都大学に在学する若手障害当事者のホープの一人。日本自立生活センターでも活動。論文：「強迫的・排他的な理想としての〈強い障害者像〉——介助者との関係における「私」の体験から」『臨床心理学』11

**渡邊琢さん** 日本自立生活センター事務局員にして、介助者、介助コーディネーター。知的障害者の当事者団体ピープルファースト京都の支援者もつとめる。介助者や支援者という立場から自立生活運動の課題を幅広く考察している。近刊に『障害者の傷、介助者の痛み』（青土社、2018年）

**【アクセス】** JR「京都」「円町」、阪急「西院」「四条大宮」などより、金閣寺方面のバスにお乗りください。「立命館大学前」「衣笠校前」「わら天神前」などで下車。詳細は「立命館大学衣笠キャンパス、アクセス」で検索。

車いす使用者等のために、JR「円町」から立命館大学まで、送迎車も用意します（有料、先着順）。詳細は下記までお問い合わせください。

**【情報保障】** 要約筆記あり。手話通訳希望、点訳希望の方は1月29日までに下記までご連絡ください。

**【その他】** お昼ごはんは各自でご持参ください。近くにコンビニ等もあります。

**連絡先** 京都市南区東九条松田町 28 メゾンガラス京都十条 101 日本自立生活センター（JCIL） 気付  
Tel 075-671-8484 Fax 075-671-8418 Mail [jcil@cream.plala.or.jp](mailto:jcil@cream.plala.or.jp)